

感謝所頭年

榎本樹邨名誉会長代行揮毫

中日新聞 令和2年1月1日号より転載

新年のご挨拶

会員の皆さん、明けましておめでとございます。令和初めての春を迎えて、いっそう晴れやかな気持ちで新年を迎えることができました。会員の皆様方にとっても平和でよき年であることを願っています。

さて、昨年一〇月から十一月にかけて名実ともに令和の到来を国内外に示す皇位継承に伴う一連の行事が、即位礼正殿の儀をはじめとして大嘗祭と実には厳かに肅々と執り行われました。私が総理大臣の任にあつた折の緊張感等が想起されてより一層感慨深いものがありました。拙著「海部俊樹回想録」にも述べておりましたので記憶されておられる方もいらっしゃると思います。

ところで、国内外の情勢に眼をむけますと、昨秋の台風や大雨による大きな被害や、先行き不透明な外交問題等難題が山

積しております。とは言ってもこの本年は、いよいよオリンピック・パラリンピックが東京中心に開催されます。昨年開催されたラグビーワールドカップ日本大会は、当初の予想をはるかに越える盛り上がりを見せ、日本代表チームの快進撃は、すばらしいものがありました。

このことは昨今のスポーツ界の活況を鑑みますと、二〇二〇年東京オリンピックは、前回のオリンピック以上の成功を予感させるものと思います。

本会では今回のオリンピックを記念して、「世界の書の祭典2020」という特別事業を企画されていると聞き及んでおります。書の魅力を発信する良い機会として大いに期待しております。また本年は、公益社団法人に移行して九年目を迎えます。会の役員として書道の普及、書道芸術の高揚、書道教育の振興があります。伊藤仙游理事長のもと、新しい執行部体制での運営実践を通して、書道のみならず日本の文化芸術が発展することを願ってやみません。会員の皆さんもどうか精進され、本会のために活躍されますことを願います。

名誉会長 海部俊樹



謹んで新春の御慶びを申し上げます。

会員の皆様には清々しい新年をお迎えになられたことと存じます。本年も何卒よろしく御願い申し上げます。

本年は「子」年、十二支が一回りし最初に戻る縁起の良い年と言われています。

また千支では「庚子」ですが、物事の終わりと始まりを表す「子」は「孽」であり生まれる・増えるの意味もあり、「庚」は物事が結実し新しい形に変化する兆しを表している形になります。したがってこの庚子の年は、変化の大きい年であるといわれています。

六十年前の庚子の年、一九六〇年には、日米安全保障条約に対する安保闘争の激化により岸内閣の総辞職、アメリカではジョン・F・ケネディーが大統

理事長 伊藤仙游



領選に勝利する等々、大きな変化の源となつた出来事が多々起こっております。

また、皇位を継承された今上天皇陛下が、ご誕生されたのもこの年でした。

本年は東京オリンピック・パラリンピックの開催を軸に、様々な分野で変化の兆しが起こるものと推察されます。本会にとりましても情勢の様々な変化に対応しながら、書文化の広汎な発展を目指して活動を進める事が肝要であると存じます。

二〇二〇年は本会でも大きなイベントを予定しております。東京2020開催に向けて「世界の書の祭典2020」と銘打ち、七月末から八月初旬にかけて、電気文化会館五階ギャラリー及びイベントホールに於いて作品展示、日本文化体験コーナー、席上揮毫、ロボットの芸術書への挑戦、等々開催する予定でございます。

昨年十二月開催の理事打ち合わせ会では骨子をお示ししており、細部を検討し

て二月の理事会でご承認頂きたいと存じて居ります。世界中から注目の集まるこの機会に日本書文化の更なる発展を求めて、企画委員一同懸命に務めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

また本年は中日書初め展・中日書道展が、共に第七十回の節目を迎える事になりました。

書初め展は既に皆様によりが送付されており、上位入賞者は中日書道展の県美会場に展示の予定でございます。

また、中日書道展は二月下旬には出品規定、出品票等、書式一式をお送りいたします。第七十回記念展でございますので、二科審査員には記念賞を設け、依頼以下句には出品規定、出品票等、書式一式をお送りいたします。第七十回記念展でございますので、二科審査員には記念賞を設け、依頼以下句には出品規定、出品票等、書式一式をお送りいたします。

また、本年が皆様にとりまして、幸多き輝かしい年でありますことをご祈念申し上げます。今後とも宜しく御願い申し上げます。

また、本年が皆様にとりまして、幸多き輝かしい年でありますことをご祈念申し上げます。今後とも宜しく御願い申し上げます。

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 名古屋市
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
山ビル8階C号室
電話 (583) 19000
FAX (583) 1910
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷

目次

- 1 海部俊樹名誉会長「新年のご挨拶」
榎本樹邨名誉会長代行揮毫
- 2 伊藤仙游理事長「新年のご挨拶」
鬼頭翔雲名誉副会長「年頭所感」
第二十八回書展
- 3 令和元年度第二十三回
書の魅力 公開講座
改組 新第六回日展入選者
- 4 世界の書の祭典2020
《展示・イベント日程(案)》
第七十回記念中日書道展出品規程(抜粋)
同 日程表
- 5 二〇一九年チャリティー愛の募金
募金参加者ご芳名
- 8
- 10



鬼頭翔雲名誉副会長 年頭所感 (新聞掲載)



その六月に開催しました中日書道展では、「大化(令和までの年号総覧)」と銘うつて「書の祭典二〇二〇」(仮称)と題し、「世界の国名・二四八元号を、本会役員に揮毫していただき展覧し「障がい者書展」「子ども習字展」等、多彩な催しを検討しています。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

「令和の書」発展のために

ITが身近になった現代、心の豊かさを求めて手書き文字が見直されています。

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 鬼頭翔雲

本会は創立八十七年目を迎えます。会員数は四千余名を擁し、公益社団法人として各種事業の推進に努めております。

昨春「令和」に改元され、七十回展を迎えます。節目に、発展に寄与してまいります。

中日新聞 令和2年1月1日号より転載

本会名誉会長代行

樽本樹邨先生

第六十四回 現代書道二十人展 出品

会期 令和二年二月二十二日(土)〜三月一日(日)
会場 松坂屋美術館(松坂屋本店南館七階)

令和元年度 令和二年二月十一日(火・祝) 名古屋観光ホテル

第四回理事会

第一回評議員会

講演会

講師 元文部科学省教科調査官

東京学芸大学名誉教授 加藤 東陽氏

演題 「文字文化を育む書写書道教育」

第二十八回 壽書展

令和元年度壽書展を終えて

第二事業部長 馬場 紀行

本会の満七十歳以上(千四百三十五人)と会員外の一般を対象として毎年開催されます第二十八回壽書展は十一月十二日から十七日まで名古屋市中区の電気文化会館にて開催されました。本年は会員百五十八人と一般十一人の合計百六十九人の出品があり、名誉会長海部俊樹先生の「壽」、名誉会長代行樽本樹邨先生の「嚴潔」の額作品をはじめ、漢字・かな・近代詩文・小字数・篆刻と内容は多彩で、プロ書家の熟達練磨された作品から書の愛好家の自由闊達な作品まで多種多様、幅の広い作品の数々が陳

列され、眼と手と頭を使う生涯学習という位置づけで、長年にわたり書を生活の糧とされてきた方々のお気持ちや、知り合の作品をお探し頂きながら、他の方々の作品をも鑑賞出来、楽しまれたことと推察します。公益性の有る催事として開催することを旨としつつも出品者は本会の該当する方々の(四月で満七十歳以上)十一%強。会場が地下鉄伏見駅から徒歩四分という利便性と秋の心地良い季節開催を鑑みると入場者も七百人程度では寂しい感は否めず、

今後は更に多くの方々にご出品、ご来場して頂けたらと思います。



会場風景



展示会会場案内

次回開催予定
第二十九回壽書展

令和二年十一月十日(火)〜

十五日(日)

電気文化会館五階

東・西ギャラリー

令和元年度 第23回 書の魅力 公開講座

「令和元年度 公開講座」を終えて

研究部部长 武内峰敏

十一月十七日(日)、名古屋電気文化会館イベントホールに於いて、「第二十三回 書の魅力 公開講座」が開催されました。講師にお迎えしたのは本会理事の馬場紀行先生と原田凍谷先生。参加人数は、定員を満たし満席となり、伊藤仙游理事長のご挨拶の後、講座開始となりました。



第1講座 馬場紀行先生

馬場先生は「自詠を書くとは」という演題で、有名な歌人や現代書家、ご自身の自詠作品を紹介されました。自詠作品は詠んだ時の情景や思いが作品に投影され、その人となりがある、とその魅力を語られました。最後に席上揮毫され、同じ歌でかな・調和体の作品を書き分けていただきました。



第2講座 原田凍谷先生

原田先生は「顔真卿の書法とは何か」という演題で、先行鋒と従行鋒という筆法について詳しく説明された上で、顔真卿の書法の変遷、後の蘇軾・黄庭堅がその筆法を取り入れた作品について大変分かりやすくご説明いただきました。



展示参考作品



スクリーンを用いての解説風景

出され、大変参考になりました。講師の先生方には熱心にご講演いただき大変有意義な講座となりました。馬場先生、原田先生に厚くお礼申し上げます。

文責 亀井小琴

改組新第六回 日展 入選者

入選

- 愛知県
- 家田馨子
- 水野美保子
- 赤堀正風
- 加藤紫雲
- 鈴木香鵬
- 馬場紀行
- 磯貝弘子
- 小島瑞柳
- 和田美智子
- 和田英峰
- 水野佑華
- 若杉美香
- 衣川彰人
- 久米雪葉
- 清木美智子
- 田口勢望
- 川合玄鳳
- 草野慧泉
- 水野峯翠
- 高桑嚴風
- 山際雲峰
- 磯谷凄聴
- 今田昌宏
- 柴田美由紀
- 今田昌宏
- 宮田洋美
- 天野清
- 鈴木雲峰
- 寺尾桑林
- 高木紅舟
- 星野蘭雪
- 千葉晨翠
- 近藤青嵐
- 大木青嵐
- 森冬華
- 坂九瑠
- 片山清洲
- 鶴飼清波
- 丹羽藍水
- 大池青岑
- 波切童州
- 横山夕葉
- 香月久遠
- 大崎水愁
- 藤原郁代
- 深谷恵庭
- 村瀬俊彦
- 神谷緑泉
- 齋藤禹月
- 遠藤栄久
- 西尾雅子
- 石黒直子
- 田中修文
- 山口晶子
- 岩瀬陽子
- 岐阜県
- 清水春蘭
- 塚田俊可
- 伊藤小游
- 吉澤有岐子
- 林春翠
- 鈴木史鳳
- 酒向虹風
- 白木紫香
- 森本夏溪
- 小島岐香
- 鏡千裕
- 荒木敬子
- 伊藤玉冰
- 山本雅月
- 佐久美泉涯

〔○印は初入選〕
※掲載のお名前は日展ホームページ発表での名簿順となります

第七十一回

毎日書道展入賞者

佳作賞

(近代詩文書部)

松原楽朋

世界の書の祭典 2020

《展示・イベント日程(案)》

東京オリンピック・パラリンピックに向けて、中日書道会は、書道と日本文化に関わるさまざまなイベントを人種・世代・地域・障害の有無等の違いを超えて、多様な人々が参加する事を目的とし以下の事業の開催を予定しています。詳細につきましては、今後ご案内いたします。

(注) 内容につきましては変更する場合があります。中日書道会公式ホームページでもご案内します。

会場：電気文化会館（名古屋市伏見）

	7 月			8 月											
	29 日 (水)	30 日 (木)	31 日 (金)	1 日 (土)	2 日 (日)	3 日 (月) 休館	4 日 (火)	5 日 (水)	6 日 (木)	7 日 (金)	8 日 (土)	9 日 (日)	10 日 (月)		
5 階 西ホール	陳列	中日書道会『匠』の書展											搬出		
	陳列	※ 1 『世界の国名』色紙展											搬出		
5 階 東ホール	※ 2 2020 中日書道会小品書展（ハガキサイズ作品）												搬出		
	陳列	※ 3 学生書展（中日新聞紙上展優秀作品）											搬出		
	国際交流書展（外国人作品）					搬出 陳列	チャレンジ書展（障がい者作品）					搬出			
5 階 イベント ホール	会場設営	準備											搬出		
	準備	日本文化体験ブース (茶道・華道・折り紙・けん玉・コマ回し・座禅・ゆかた体験 等のブースを設け日本文化を体験できる)					日本文化体験ブース					会場準備	搬出		
	準備	書道体験ブース (うちわ・Tシャツ・マイハンコ・表札づくり等の手書き文字を体験できるブース)					書道体験ブース					参加団体 セッティ ング	搬出		
	準備	オープニング セレモニー	支部オリジナルデモンストレーション (席上揮毫・体験コーナー等) 中日書道会支部による開催				準備	夏休み子 ども書道 体験教室	夏休み書写宿題お助けコ ーナー			準備	障がい者による席上揮毫	準備	学生書展優秀者席上揮毫
1 階 エスカレータ前広場	準備											準備	企業ロボットアーム「芸 術書道に挑戦」	搬出	

- ※ 1 『世界の国名』色紙展：役員の先生方にご案内しご賛同賜り、『世界の国名』を色紙に揮毫をお願いします。
- ※ 2 2020中日書道会小品書展（ハガキサイズ作品）：会員の先生方にご案内しご賛同賜り、作品（ハガキサイズ）のご出品をお願いします。作品締切りは6月中旬。
- ※ 3 学生書展（中日新聞紙上展）：出品は幼年から高校生、作品規格は半紙、要項案内は3月（書き初め展出品の先生方に送付します。それ以外の先生は本部にご連絡下さい）、作品締切り5月28日（木）、優秀作品は中日新聞で7月に発表（紙上展）します。また、学生書展として優秀作品を電気文化会館でも展示します。

第七十回記念 中日書道展出品規程（抜粋）

一、会場・会期

▼愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー
依嘱以上の役員（第一～五部全作品）
二〇二〇年六月 十七日（水）～六月二十一日（日）

▼名古屋市民ギャラリー栄

無鑑査作品（第二～五部全作品）
無鑑査作品（第一部）
二〇二〇年六月 十六日（火）～六月二十一日（日）

▼名古屋博物館

一科作品 二〇二〇年六月二十四日（水）～六月二十八日（日）
二科作品 二〇二〇年六月 三十日（火）～七月 五日（日）

※愛知県美術館ギャラリー

記念展大作特別展示
第七十回記念中日書きぞめ展 上位作品（二〇四点予定）を展示

※御長寿作品（米寿）の展示について

米寿の役員作品（無鑑査漢字部を含む）と米寿の公募（一科二科）作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、公募作品は名古屋博物館のそれぞれの会期にて再度展示します。（P8とP37に詳細を掲示してあります）

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上（平成十七年四月一日生まれ以前）の者とする。（但し十五歳から二十一歳までの者（平成十年四月二日生まれから平成十七年四月一日生まれまで）は証明書（免許証、学生証、保険証等のコピー）を提出する。）（ホチキスでは止めないで下さい）

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。（止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること）

一、審査会場

電気文化会館（伏見）5階全フロア

一、審査日程

二科作品 二〇二〇年五月十五日（金） 午前九時三十分～
一科作品 二〇二〇年五月十六日（土） 午前九時三十分～
特別賞選考 二〇二〇年五月十七日（日） 午前九時三十分～

一、審査員

特別賞選考委員は、二科審査員、依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。（本年度特別賞選考委員・審査員は十頁に記載）
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。（二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する）

- 二科作品 —— 二科賞（二点）・奨励賞（一点）・佳作（〇・五点）
- 一科作品 —— 推薦（三店）・特選（二店）・準特選（二点）・秀逸（〇・五点）
- 無鑑査作品 —— 中日賞・桜花賞
- 依嘱作品 —— 海部俊樹賞・大賞・準大賞
- 二科審査員作品 —— 第七十回記念賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。
一科 昇格 —— 二科において総点三点に達した者
無鑑査昇格 —— 一科において総点五点に達した者
依嘱昇格 —— 無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
二科審査員昇格 —— 依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者
一科審査員昇格 —— 二科審査員において第七十回記念賞を受賞した者

一、授賞式

二〇二〇年六月二十一日（日） ナゴヤキャッスル 午後三時半より（予定）

一、祝賀会

二〇二〇年六月二十一日（日） ナゴヤキャッスル 午後六時より
〔参加は二十歳以上に限る。〕

一、入場料

三〇〇円（小・中・高校生は無料）、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十日（金）までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。
※正会員（展覧会役員及び一科会員）の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、公益社団法人中部日本書道会本部へご請求下さい。
搬入・搬出については、取扱店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。
※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度二出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。（申請最終締切三月三十一日）
※新規出品の十五歳から二十一歳（平成十年四月二日生まれから平成十七年四月一日生まれまで）の方は、証明書（免許証、学生証、保険証等のコピー）を出品票に添付して下さい。（ホチキスでは止めないで提出して下さい）
※本年度不出品者（正会員）の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。
※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第七十回記念中日書道展作品展示会場および会期

特別審査員 一科審査員 二科審査員 依囑	一科 全作品	愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー 8F ※1・2・3	10:00~18:00 *最終日は10:00~20:00 *最終日は16:00まで
無鑑査	二科 五部作品 (入賞作品を含む)	名古屋市民ギャラリー栄	9:30~18:00 *最終日は16:30まで
無鑑査	一部作品 (入賞作品を含む)	名古屋市民ギャラリー栄	9:30~17:00 *最終日は15:00まで
一科	一科 五部 全作品	名古屋市民ギャラリー栄	9:30~17:00 *最終日は15:00まで
二科	二科 五部 全作品	名古屋市民ギャラリー栄	9:30~17:00 *最終日は15:00まで

6/16(火)	
17(水)	
18(木)	
19(金)	
20(土)	
21(日)	
22(月)	
23(火)	
24(水)	
25(木)	
26(金)	
27(土)	
28(日)	
29(月)	
30(火)	
7/1(水)	
2(木)	
3(金)	
4(土)	
5(日)	

※1 七十回記念展大作特別展
 ※2 第七十回中日書道展 上位作品を愛知県美術館ギャラリー8Fにおいて六月十七日(水)〜二十一日(日)まで展示します
 ※3 御長寿作品(米寿)の展示について 米寿の役員の作品(無鑑査漢字部を含む)と米寿の公募(二科・二科)作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、公募作品は名古屋博物館のそれぞれ会期にて再度展示します。

審査顧問から無鑑査までの出品について
 一、作品寸法
 二科出品について
 一、作品寸法 二科作品(准会員二科公募)
 一、作品寸法 二科作品(准会員二科公募)

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	B A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四、〇〇〇円	
特別出品	B A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四、〇〇〇円	理事・監事 一四、〇〇〇円
一科審査員	B A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一四、〇〇〇円	評議員・参与 一四、〇〇〇円
二科審査員	B A	〇・九一m(三・尺)×〇・九一m(三・尺)		(※顧問を除く)
依囑	B A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一二、〇〇〇円	
無鑑査	B A	〇・九一m(三・尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	一二、〇〇〇円	
帖	巻子	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)額(縦横自由)	八、〇〇〇円	

審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
 一科審査員・依囑・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)
 二科審査員・依囑・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)
 一科審査員・二科審査員・依囑・無鑑査の作品で、帖・巻子(第一部・第三部)は、縦〇・三五m×横〇・四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。
 篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。

・刻字は一m平方以内とする。
 ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)
 ・依囑以上の作品はアクリル入りとする。(第一部・第五部)
 ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半切額を認めない。
 ・御長寿作品(米寿)の展示について 米寿の役員の作品(無鑑査漢字部を含む)は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。

一科出品について
 一、作品寸法 一科作品(一科会員に限る)

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
C	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺)枠(縦横自由)		
D	一・八二m(六・尺)×〇・七九m(二・六尺)枠		
E	一・八二m(六・尺)×〇・六六m(二・尺)枠		
F	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺)枠		
G	二・四二m(八・尺)×〇・六六m(二・尺)枠		
H	一・二一m(四・尺)×一・二一m(四・尺)枠	九、〇〇〇円	
I	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(五・尺)額(縦横自由)		八、〇〇〇円
J	〇・九一m(三・尺)×一・二一m(四・尺)額		
K	二・二二m(七・尺)×〇・七〇m(二・三尺)額		

・十五歳から二十一歳(平成十年四月二日生まれから平成十七年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・巻子の出品は認めない 十八歳以上は要年会費)
 ・作品寸法は右記の通りとする。
 ・本年度もG(二・四二m(八尺)×〇・六六m(二尺))は縦横自由とする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「裱張り」仕上りとする。(一部・四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・巻子及び帖は(第一部・第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。(但し、審査終了後となります)
 ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
 ・御長寿作品(米寿)の展示について 愛知県美術館ギャラリー8Fに展示し名古屋博物館(二科会期)に再度展示します。

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺)枠(縦横自由)	
B	〇・九一m(三・尺)×〇・九一m(三・尺)枠	七、〇〇〇円

二科出品について
 一、作品寸法 二科作品(准会員二科公募)
 一、作品寸法 二科作品(准会員二科公募)
 ・十五歳から二十一歳(平成十年四月二日生まれから平成十七年四月一日生まれまで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・巻子の出品は認めない)
 ・作品寸法は右記の通りとする。
 ・本年度もG(二・四二m(八尺)×〇・六六m(二尺))は縦横自由とする。
 ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
 ・作品は、創作又は臨書とする。
 ・作品は、「裱張り」仕上りとする。(一部・四部)
 ・帖は見開き横〇・七m以内。
 ・巻子及び帖は(第一部・第三部)は、縦〇・三五m×横二m。
 ・篆刻は、二印以内で印影のみとしアクリル入り額装とする。(但し、審査終了後となります)
 ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三m。
 ・刻字は、一m平方以内とする。
 ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
 ・重量は四キログラムを超えないこと。
 ・御長寿作品(米寿)の展示について 愛知県美術館ギャラリー8Fに展示し名古屋博物館(二科会期)に再度展示します。

第七十回記念 中日書道展出品について (取扱店の皆様へ)

●書類搬入

・所定の出品票を四月十五日(水)に中部日本書道会本部へ書類搬入して下さい。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)

・新規出品の十五歳から二十一歳(平成十年四月二日生まれから平成十七年四月一日生まれまで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。(ホチキスでは止めないで提出して下さい)

・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。書類搬入がされていない作品は受付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱店にて搬入搬出して下さい。
・二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品(五月十四日(木) 午前十時三十分～午前十一時四十五分 名古屋伏見 電気文化会館五階に搬入。)

●展覧会の搬入・搬出について

・事務分掌P8・9の日程表、搬入・陳列・搬出スケジュールをご確認下さい。

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。

・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依嘱はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

●取扱店番号について

・出品票の取扱店番号欄に左記の番号をご記入下さい。(取扱店にて記入して下さい。)

取扱店名	取扱店番号
吸月堂	11
大玄堂	12
書遊川口春霞堂	13
小松表具店	14
石黒五雲堂	15
書遊平野筆墨堂	16
浅井梧竹堂	17
西川堂森表具店	18
伊藤大林堂	19
加藤長寿堂	20
菊屋商店	21
名古屋ホウコドウ	22
青柳堂	23
創源工房	24
金陽堂表具店	25
應天堂	26
名古屋キョー和	27
岡本頌文堂	28
上記以外の取扱店	50

※御長寿作品(米寿)〈昭和六年四月二日～昭和七年四月一日生まれの方〉(平成三十一年四月二日～令和二年四月一日に八十八才になられた方)の展示について
米寿の役員の作品(無鑑査漢字部含む)と米寿の公募(一科・二科)作品は愛知県美術館ギャラリー18Fに展示します。又、公募作品は名古屋博物館のそれぞれの会期にて再度展示します。

〔作品取扱店〕

- 浅井梧竹堂 〒四三二〇八三 名古屋市西区あし原町六八一 電(〇五二)五〇四一二七〇三
- 石黒五雲堂 〒四三二〇八四 名古屋市中区豊国通四一四六 電(〇五二)四二一七八六二
- 伊藤大林堂 〒四三二〇八四 名古屋市名東区香南一五〇七(長前寺) 電(〇五二)七七六一八八一
- 永楽堂 〒四四二〇八五 西尾市永楽町四一〇 電(〇五六)三五四二〇五三
- (株)應天堂 〒五〇二二七 岐阜市下鶴飼一四六八 電(〇五八)二九九一五二〇〇
- (有)岡本頌文堂 〒五二〇〇八 四日市市北町三一四 電(〇五九)三三二一六〇一〇
- 魁盛堂 (株) 〒四二一〇三三 名古屋市西区押切二二一一三 電(〇五二)五二一一三二一一
- 加藤長寿堂 〒四二一〇三九 名古屋市中区上米野四二四(吉野ビルF1号室) 電(〇五二)四五二一四七五一
- (有)伽藍 〒四二一〇二二 名古屋市中区大須三一八一〇 電(〇五二)二四二一七七四一
- (有)菊屋商店 〒四二一〇二七 名古屋市中区新栄二一四六 電(〇五二)二四一一一四四五
- (有)吸月堂 〒四二一〇四四 名古屋市北区清水二二二二 電(〇五二)九三一六九四八
- 金陽堂表具店 〒四二一〇七六 豊田市久保町三一二七一 電(〇五六)五三二一〇八六三
- 小松表具店 〒四二一〇八三 小牧市東二一五四四 電(〇五六)八七五二〇二八一
- 書遊川口春霞堂 〒四二一〇三三 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四四四一八〇二四
- 書遊平野筆墨堂 〒四二一〇三三 あま市七宝町下田四反割二 電(〇五二)四三三一一三〇三三
- (有)新泉堂 〒四二一〇〇六 名古屋市北区若鶴町三四四一 電(〇五二)九〇一一〇五一四
- (株)青柳堂 〒四二一〇〇八 名古屋市中区栄四一八(中区役所ビルF) 電(〇五二)二五九一〇三一一三
- 創源工房 〒四二一〇〇四 名古屋市中区若田三一〇六 電(〇五二)六二九一五〇三五
- (株)大玄堂 〒五〇二八二九 岐阜市須賀一八二二五 電(〇五八)二七一二六六二
- 名古屋キョー和 〒四二一〇〇八 名古屋市中区栄四二一一〇(小浅ビルF) 電(〇五二)二六三一九四〇一
- (株)名古屋ホウコドウ 〒四二一〇三三 春日井市八事町一一九〇一三一一三 電(〇五六)八八九七七七八八
- 西川堂森表具店 〒四二一〇八三 一宮市下田二一四一二五 電(〇五八)六七二一三六二九
- 松屋紙店 〒四二一〇八六 半田市清水北町六三 電(〇五六)九二一一二五七二

第七十回記念 中日書道展 日程表

二月 二十日	木	書類発送	中部日本書道会本部	午前九時半～午後三時
四月 十日	金	書類(各取扱店の締切)		
十五日	水	書類搬入(取扱店) 本部へ	中部日本書道会本部	受付 午後一時～三時 作業 午後四時まで
電気文化会館 東・西ギャラリー・イベントホール 五階				
五月 十四日	木	二科審査員・依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入		午前九時半～午後五時
十五日	金	二科・鑑査		
十六日	土	一科・鑑査	一部・二部・三部・四部・五部	午前九時半～午後五時
十七日	日	特別賞選考(二科審査員・依嘱・無鑑査) 裏打ち作品搬出		午前九時半～午後三時 午後三時～午後五時
愛知芸術文化センター 県美ギャラリー 八階				
六月 十六日	火	審査顧問・特別出品・一科審査員・二科審査員・依嘱 無鑑査(第二部～五部入賞作品を含む) 作品搬入・陳列		搬入 午前十時～午後五時 (主任以上) 陳列 午後一時～午後五時
十七日	水	※1・2		午前十時～午後六時
十八日	木	※1・2		午前十時～午後六時
十九日	金	※1・2		午前十時～午後八時
二十日	土	※1・2		午前十時～午後六時
二十一日	日	※1・2		午前十時～午後四時 午後四時～午後五時三十分
二十三日	火	※1・2		搬出 午前九時半～正午
名古屋市民ギャラリー栄 八階				
六月 十五日	月	無鑑査作品搬入・陳列(第一部)		搬入 午後一時～午後五時
十六日	火	無鑑査作品展示(第一部) 第一部入賞作品を含む		陳列 午前九時半～午後六時
十七日	水	無鑑査作品展示(第一部) 第二部		午前九時半～午後六時
十八日	木	無鑑査作品展示(第一部) 第三部		午前九時半～午後六時
十九日	金	無鑑査作品展示(第一部) 第四部		午前九時半～午後六時
二十日	土	無鑑査作品展示(第一部) 第五部		午前九時半～午後六時
二十一日	日	無鑑査作品展示(第一部) 第六部		搬出 午後四時半～午後六時 ※ただし部屋からの搬出は午後五時～

名古屋市博物館 三階

六月二十三日	火	一科作品搬入・陳列		搬入 午後一時～午後五時
二十四日	水	一科展示会		陳列 午前九時半～午後五時
二十五日	木	〃		午前九時半～午後五時
二十六日	金	〃		午前九時半～午後五時
二十七日	土	〃		午前九時半～午後五時
二十八日	日	〃		午前九時半～午後五時
二十九日	月	一科作品搬出・二科搬入		一科搬出 午前九時半～正午 二科搬入 午前九時半～正午
三十日	火	二科展示会		二科陳列 午後二時～午後五時
七月 一日	水	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
二日	木	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
三日	金	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
四日	土	〃		二科陳列 午後二時～午後五時
五日	日	〃		二科陳列 午後二時～午後五時

※1 記念展大作特別展示
 ※2 第七十回記念中日書きぞめ展上位作品(一〇四点予定)を展示

■御長寿作品(米寿)〈昭和六年四月二日～昭和七年四月一日生まれの方〉〈平成三十一年四月二日～令和二年四月一日に八十八才になられた方〉の展示について「米寿の役員の作品(無鑑査漢字部含む)」と米寿の公募(一科・二科)作品は愛知県美術館ギャラリー8Fに展示します。又、公募作品は名古屋博物館のそれぞれの会期にて再度展示します。

◆授賞式・祝賀会 六月二十一日(日) ナゴヤキャッスル

中日書道展 事務局業務

	担 当 部	作 業
1	総 務 部	遺作出品依頼
2	庶 務 部	審査員等辞令交付 審査依頼 来賓招待
3	第1・第2 企画部兼IT部	特別展等 書類搬入集計 地域版掲載データ作成 入賞作品CDROM等作成 展覧会データ作成
4	経 理 部	審査時昼食手配 展覧会関係経理
5	会 員 部	各部補助
6	第1・第2 事業部	展覧会要項・事務分掌・出品票等作成 中日展運営委員会 審査会・展覧会会場使用打ち合せ・次年度申し込み 審査会・展覧会会場設営（展示パネル・看板等） 中日展反省会 その他展覧会関係作業
7	研 究 部	各部補助
8	教 育 部	各部補助
9	褒 賞 部	賞品賞状準備・揮毫・袋詰 授賞式
10	渉外宣伝部	後援・共催申請 ポスター・案内状作成 出品要項等発送 新聞広告原稿
11	記録統計部	写真撮影・記録（会場風景など） 審査員写真撮影 受賞作品撮影 受賞者写真撮影
12	編 集 部	展覧会原稿依頼・編集 評論文依頼・編集
13	厚 生 部	祝賀会

事務分掌記載部業務

書類搬入整理部	展覧会要項・事務分掌・出品票等発送 入賞通知・入賞目録作成
---------	----------------------------------

梅村 鉄明	大崎 露光	大橋 幽徑	長村 子鴻	可児 長望	神田 閨秀	黒田 寿水	小林 祥鶴	佐藤 桑碩	新海 峰永	鈴木 悠水	竹内 春翠
梅村 悠徑	大鹿 珠翠	大森 香鶴	小澤 佳路	金丸 翠石	岸田 松峰	黒柳 葉舟	近藤 翠香	佐藤 不朽	杉浦 琇鈴	鈴木 容華	竹内 清泉
江川 翠苑	大曾根弘風	岡崎 鷗風	尾関 楊花	鎌倉 彩風	木島 静月	小池 玲翠	近藤 翠嶺	佐藤 緑風	杉浦 仁美	清木美智子	竹内 友康
江川 清翠	太田 佳香	小笠原青華	落合 玉泉	上小倉積山	北川 爽風	小宇佐久美	近藤 晴翠	真田 九龍	杉坂 采和	関戸 海越	竹内 南里
江口 大濤	太田 雅堂	岡田 惠鶴	尾中 杉得	神谷 光園	北野 春艸	小宇佐久美	近藤 青洩	沢田 明琴	杉田 節子	関根 玉翠	武内 幽汀
榎本 照乃	太田 紫翠	岡田 惠香	尾之内柳雪	神谷 采邑	北村 光苑	甲谷富美子	近藤 延子	沢田 明琴	杉本 京扇	関谷 蒼玄	竹内 由美
遠藤 栄久	太田 浄泉	緒方 津苑	小野田景月	神谷 松扇	衣川 彰人	幸村 溪雪	近藤 梅鶯	三田 蕉葉	杉山 瓊川	瀬古 麗峰	竹田 景汀
遠藤 紫香	太田 青華	岡田 麗峰	小野田美晴	神谷 静苑	木村 霞月	河村 黄園	近藤 芳玉	三田 恵翠	菅生 攝堂	世古口玉扇	武田 晶庭
塩谷 秀蘭	太田 由香	岡田 紅華	界外 玉桜	神谷 緑泉	木村 明峰	香村 孤竹	近藤由紀枝	式守 白萩	鈴木 雲峰	世古口大虚	竹中 青蘭
大鐘 紫陽	太田 游山	岡本 桃香	貝沼 春雨	亀井 小琴	久徳 蓬香	小坂 克子	近藤 瑶華	篠田 祥濤	鈴木 花園	高井 香園	武野 桂華
大上 懂花	太田 葉子	小川 琴風	加古 松泉	荻田 遵松	清沢 華舟	小島 岐香	齊藤 禹月	柴田 厚実	鈴木 華瑤	高井 東里	武山 朝路
大川 澄泉	大竹 玄友	小川 秀水	加古 仔春	荻谷 伸風	日下部みゆき	小嶋 真海	齊藤 千秋	柴田 華逕	鈴木 葵風	高木 玄齊	田島 不染
大木 青嵐	大谷 万里	奥田 蘭庭	笠原喜美江	川合 玄鳳	草野 慧泉	小嶋 瑞月	酒井 光華	柴田 秀瑤	鈴木 京楓	高木 紅舟	田島 柳葉
大河戸柳光	大野 樹抱	奥村 碧洋	片原 秀園	河合 翠月	葛谷 恵園	小嶋 雪舟	酒井 麗月	柴間 秀瑤	鈴木 香菽	高木 光風	楯 青萌
大崎 水愁	大橋 南風	尾崎 紫光	片山 紫雲	河合 醉光	工藤 子鷗	小嶋 千翠	榊原 珠月	島田 楓林	鈴木 香鵬	高木 清雲	楯 芳琴

〔一宮支部〕

令和元年十二月十日(火)

中日新聞一宮総局へ支部長川浦碧濤と

支部次長橋本成良、吉田桃花が伺い、中日新聞社会事業団の「年末助け合い運動に」と一宮総局長有賀信彦氏に十万円を寄託。



金澤 秀鶯	川本 大幽	黒川 鵬霄	小林 恵風	佐藤 水香	白柳ゆかり	鈴木美都子	竹内 紫峰	谷 泉石
加藤 碧涛	川本 赫汀	黒川 虚宇	小林 玉芙	佐藤 晨麗	白木 紫香	鈴木真理子	竹内 紫燕	谷 鴻風
加藤 博子	川村 春霞	栗本 珠路	後藤 幽泉	佐藤 寛山	白井美喜子	鈴木 芳春	武井 岳峰	棚橋 一葉
加藤 艸舟	河原崎坡青	倉橋 松容	後藤 文明	佐藤 華泉	東海林路子	鈴木 美豊	滝本 白峰	田中 千翠
加藤 夕堤	河原 彩雲	倉橋 高堂	後藤 蘇月	佐竹 得道	下村 汀柳	鈴木 美翠	滝 白雅	田中 石雲
加藤 翠影	川出 泉麗	倉橋 華仙	後藤 松烟	笹本 汀風	下郷 豊園	鈴木 美月	高松 秀翠	田中 照葉
加藤 渚蓮	河内 紫雪	倉田 朝華	後藤 香波	佐々木宏潤	志村 舟泉	鈴木 凍山	高橋 白羊	田中 祥雲
加藤 松雲	河内 飛園	倉田 瀟碧	小寺 彩恵	酒向 虹風	清水 流香	鈴木 千恵	高橋 竹香	田中 修文
加藤 秀慧	河田 聖翠	倉田 珪延	小塚 珠香	桜場 龍峰	清水 澄園	鈴木 石城	高橋 栖雲	田中 紫雲
加藤 月苑	川崎 清吟	倉科 清怜	小谷 春苑	櫻木 吟對	清水 翠芳	鈴木 青楓	高橋 寿香	田中 幸江
加藤 花畦	川口 由美	倉内 秀佳	小島 泰子	桜井 和香	清水 春蘭	鈴木 静香	高橋 華堂	田中 光穂
加藤 永樵	川口 紫泉	久納 竹景	小島 初美	坂井 柳絮	清水 好流	鈴木 松厓	高根 桂祥	田中 幸香
勝海 芝香	川浦 碧濤	國島 英華	小島 白汀	坂本 美薔	志水 憬堂	鈴木 史鳳	高田 香坡	田中 玉穂
片山 紫雲	河合 醉光	工藤 子鷗	小嶋 千翠	榊原 珠月	志水 玉華	鈴木 紅瑤	高桑 嚴風	立松 鶴風
片原 秀園	河合 翠月	葛谷 恵園	小嶋 雪舟	酒井 麗月	島田 楓林	鈴木 香鵬	高木 清雲	楯 芳琴
笠原喜美江	川合 採星	草野 慧泉	小嶋 瑞月	酒井 光華	澁谷 鳴風	鈴木 香菽	高木 光風	楯 青萌
籠瀬 提花	川合 玄鳳	艸田 洋子	小嶋 瑞柳	酒井 琴泉	柴間 秀瑤	鈴木 京楓	高木 紅舟	田島 柳葉
加古 仔春	荻谷 伸風	日下部みゆき	小嶋 真海	齊藤 禹月	柴田 厚実	鈴木 葵風	高木 玄齊	田島 不染
加古 松泉	荻田 遵松	清沢 華舟	小嶋 岐香	齊藤 千秋	柴田 華逕	鈴木 華瑤	高井 東里	武山 朝路
貝沼 春雨	亀井 小琴	久徳 蓬香	小坂 克子	近藤 瑶華	篠田 祥濤	鈴木 花園	高井 香園	武野 桂華
界外 玉桜	神谷 緑泉	木村 明峰	香村 孤竹	近藤由紀枝	式守 白萩	鈴木 雲峰	世古口大虚	竹中 青蘭
小野田美晴	神谷 静苑	木村 霞月	河村 黄園	近藤 芳玉	三田 恵翠	菅生 攝堂	世古口玉扇	武田 晶庭
小野田景月	神谷 松扇	衣川 彰人	幸村 溪雪	近藤 梅鶯	三田 蕉葉	杉山 瓊川	瀬古 麗峰	竹田 景汀
尾之内柳雪	神谷 采邑	北村 光苑	甲谷富美子	近藤 延子	沢田 明琴	杉本 京扇	関谷 蒼玄	竹内 由美
尾中 杉得	神谷 光園	北野 春艸	小宇佐久美	近藤 青洩	沢田 明琴	杉田 節子	関根 玉翠	武内 幽汀
落合 玉泉	上小倉積山	北川 爽風	小宇佐久美	近藤 晴翠	真田 九龍	杉坂 采和	関戸 海越	竹内 南里
尾関 楊花	鎌倉 彩風	木島 静月	小池 玲翠	近藤 翠嶺	佐藤 緑風	杉浦 仁美	清木美智子	竹内 友康
小澤 佳路	金丸 翠石	岸田 松峰	黒柳 葉舟	近藤 翠香	佐藤 不朽	杉浦 琇鈴	鈴木 容華	竹内 清泉
長村 子鴻	可児 長望	神田 閨秀	黒田 寿水	小林 祥鶴	佐藤 桑碩	新海 峰永	鈴木 悠水	竹内 春翠

谷利	紫鳳	土屋	春聲	戸松	紅翠	永坂	抱月	丹羽	清郷	服部	蘇華	日比野	壽翠	古川	侃司	松田	雅風	宮原	玲舟	八木	彩花	山田	正代
谷口	琇苑	土屋	小苑	富田	華妍	長崎	成秀	丹羽	茜麗	花井	清水	日比野	妃扇	古田	祥扇	松田	樹幹	宮本	壽草	矢島	秀漣	山田	有華
谷口	大観	都筑	聖園	富田	青邑	中島	祥園	丹羽	裕	幅上	蘭香	平井	三千代	星野	蘭雪	松原	紫園	三輪	三麗	矢島	潮香	山田	流芳
種田	瑞鳳	堤	光星	富田	蘭月	中島	祐三子	丹羽	藍水	早川	和子	平岩	美風	堀田	惠香	松元	彩華	三輪	晴風	保田	翠溪	山本	史鳳
玉樹	榮香	角田	紫苑	外山	悠汀	永瀬	紅蘭	野口	紀代子	早川	杏花	平岡	妙紅	堀田	花	丸山	聖峰	三輪	香苑	安田	翠嵐	山脇	三枝
田村	泉舟	角田	和泉	鳥居	竹泉	永瀬	珠香	野田	佳楊	林	華泉	平賀	秀園	堀場	秀峰	美希	昌風	三倉	春汀	安田	雪篁	吉川	清軒
為水	剛	坪井	白汀	鳥居	柳城	永田	桂華	野田	虹園	林	紫香	平野	公鶴	堀場	秀峰	三倉	春汀	村上	史麗	矢田	部里美	吉澤	劉石
多和田	墨濤	坪沼	明美	中井	港星	永田	美幸	野田	はる美	林	紫州	平野	公慎	本田	煌雲	三代	雄峯	村瀨	季舟	梁川	景雲	吉田	一峰
千葉	晨翠	寺尾	桑林	永井	青楓	中田	和香	野々垣	清城	林	秋芳	平野	芳碩	本田	秀岳	水田	珪華	村瀨	季舟	箭野	翠風	吉田	香雪
中条	彰山	寺島	春恵	永井	友理	永谷	加代子	野村	暁峰	林	春翠	平原	皓月	前田	千登世	水谷	天風	村田	華泉	山内	香霖	吉田	江楓
塚田	俊可	寺嶋	三和	中尾	芝菜	永谷	恵子	野村	清涼	林	如華	平松	心華	牧	仙岳	水谷	敏子	村田	光柊	山内	窓楓	吉田	清城
塚本	桃里	寺本	陽春	中川	貴舟	中西	笙月	野村	揚月	林	大樹	平光	朱扇	牧野	瑞葉	水野	泉美	村田	籬香	山川	昌泉	吉田	桃花
築山	みなみ	鶴澤	澄江	中川	翔鶴	中西	草城	則武	穹	林	天翔	広井	秀琳	増田	春暉	水野	さと子	村松	紫雲	山川	孝子	吉田	美影
辻	秀麗	戸崎	翠虹	中川	瑞玉	中野	世津香	萩原	祐子	林	柏堂	深田	芳香	増田	蘭苑	水野	清花	毛利	暁草	山岸	邦山	吉原	純芳
津田	松鶴	戸田	青楓	中川	星光	中野	寿美	橋詰	桃邨	林	玲玉	深津	洋子	松井	香代子	水野	朋香	毛利	恵風	山口	蕙世	吉村	和子
土屋	香風	戸松	香苑	中川	麗香	永平	巳旺子	羽柴	苔谷	林	虎峰	深見	蒼海	松井	秀麗	水野	美千	望月	希彩	山口	竹汀	吉村	美雪

〔半田支部〕

令和元年十二月九日(月)

中日新聞半田支局へ山内江鶴支部長、

平松采桂支
部次長、田
中修文事務
局長が伺
い、「年末助
け合運動に」
と岩佐和也支
局長に十万円
を寄託。



仲村	春水	長谷川	華香	原	霞扇	深谷	恵庭	松浦	瑞月	溝口	子静	元祐	秀蘭	山口	裕子	吉村	峰燕	米田	厓陽	吉村	和子	吉原	純芳
中村	清園	長谷川	恵玉	原	瑞芳	福島	徹山	松崎	朱實	溝口	大仙	物部	浩子	山口	律舟	若杉	美香	若山	峰漂	若山	峰漂	若山	峰漂
中村	清岳	長谷川	春香	原	圭竹	福島	有何	松崎	青漣	溝口	渺然	桃井	祥谷	山崎	紅影	若山	峰漂	若山	峰漂	若山	峰漂	若山	峰漂
中村	曾南	長谷川	眞山	原	清尚	福田	徑揚	松佐	古溪水	光澤	閑石	森	京華	山崎	富泉	鷺津	岱嶺	鷺津	岱嶺	鷺津	岱嶺	鷺津	岱嶺
中村	竹童	長谷川	翠流	原	南鳳	福田	ヒデ	松澤	昂永	三橋	紅月	森	絹泉	山田	海石	鷺野	紫篁	鷺野	紫篁	鷺野	紫篁	鷺野	紫篁
長屋	天虹	長谷川	鸞卿	坂	九塔	福谷	紅華	松下	鶴苑	皆川	嗣恵	森	紅雀	山田	杏華	渡津	房江	渡津	房江	渡津	房江	渡津	房江
新美	秋鳳	秦	雪映	伴	晋水	藤田	寒樹	松下	嬉春	三野島	凌雲	森	翠葉	山田	桂苑	渡辺	鶴山	渡辺	鶴山	渡辺	鶴山	渡辺	鶴山
新美	珠光	羽田	野江楓	半田	博子	藤野	秀代	松下	聖心	宮	希蓉	森	冬華	山田	紅照	渡辺	慶心	渡辺	慶心	渡辺	慶心	渡辺	慶心
西垣	美茜	波多野	香葉	阪野	小波	藤村	真徳	松下	武義	三宅	杞璋	森	政子	山田	秀謙	渡辺	月潭	渡辺	月潭	渡辺	月潭	渡辺	月潭
西川	原翠苑	坂野	渚月	坂野	竹童	藤原	郁代	松下	三雪	宮崎	富山	森	林華	山田	梢心	渡辺	北嶺	渡辺	北嶺	渡辺	北嶺	渡辺	北嶺
西村	松花	服部	春逕	坂野	竹童	夫馬	春園	松田	鶴鵬	宮田	清風	森	晶月	山田	青舫	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子
仁田	脇京華	服部	青巒	日江	井芝香	古川	花溪	松田	華月	宮田	洋美	矢上	扇麗	山田	白陽	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子	渡辺	悠悠子

愛澤 珠翠 浅野 多鶴
 青木 美洲 浅野 揺草
 青木 来夢 阿部 光泉
 青木 和馨 阿部 牧香
 青山 和生 新井 翠眉
 青山 佳白 荒井 游舟
 青山 千峯 荒木 桃花
 縣 欣司 安藤早百合
 秋田由希恵 安藤 昭亭
 浅井 清泉 安藤 範香
 浅井登志子 安藤 美恵
 浅井 花枝 安藤 幸恵
 浅川 都鸞 飯田 寿泉
 浅野 蛭雪 飯田 泰郷
 浅野 清澄 飯田 美香

〈西三河支部〉

中部日本書道会の西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中部日本書道会西三河支部(西尾市)の加藤松雲支部長(右)と写真(右から二人目)ら役員四人が六日、中日新聞岡崎支局を訪れ「恵まれない方々へ」と

中日新聞 2019.12.7(土)

飯田 楽舟 板倉 恵子 稲吉 邦子 上田 雙詠 太田 紫紅 岡本 裕鼎 加藤 敦美 河合 秀苑
 飯塚ひろみ 板倉 香淵 稲吉小夜子 上野 明美 太田 翠香 小川 華葉 加藤 生子 川合 碩山
 池上 創 板倉 虹華 犬飼 美晴 上松 晨陽 大武 英子 小川 蓮花 加藤 貴咲 河合 澄香
 池田 絹子 市川 兼正 犬塚 八重 犬飼 翠芳 小川 澄光 加藤 喜峰 川北 博子
 池田 朔月 市川 香雪 井野 華水 井上三保子 宇佐美待月 鶴飼 清波 大谷 翠香 加藤 杏華 川口 花園
 池田 秀翠 市川 純慧 井上 三保子 井上 三保子 宇佐美待月 鶴飼 清波 大谷 翠香 加藤 杏華 川口 花園
 井桁 翠咲 伊藤 文野 井上 ゆい 井上 三保子 宇佐美待月 鶴飼 清波 大谷 翠香 加藤 杏華 川口 花園
 石泉 松風 伊藤 英美 伊吹 紅鳳 白井 桃園 大西 影慕 奥田 すみ子 加藤 玉華 川口 芳雲
 石川 加翠 伊藤 鳳珠 白井 和舟 大西 和枝 奥田 光子 加藤 珪風 川澄 良子
 石川 彩香 伊藤 恵子 今井 夏虹 大野 勝子 奥野 鶴扇 加藤 湖舟 川瀬 実咲
 石川 清曉 伊藤 谿石 今井 金子 大野 瞬玲 奥野 順子 加藤 紫雲 川村 舟楫
 石川 桃露 伊藤 紅彩 今井 恭子 大野 馨泉 奥野 順子 加藤 紫雲 川村 舟楫
 石川 惠美 伊藤 紅葉 今井 春陽 大野 早加 尾崎 涼舟 加藤 昭蘭 河村 喜汀
 石川 龍泉 伊藤 彩秀 今西 道子 宇都野美代子 内山 雅舟 大野 彩 小倉 壽子 加藤 春溪 河村 紫鳳
 石川 玲香 伊藤 紫鳳 今村 禎邨 江川 幸甫 大村 瑞苑 加藤 大然 川本 青柎 河村 典子
 石川 麗香 伊藤 紫鳳 今村 古雅 江口 幽岳 大矢 翠華 加藤 照代 川本 俊子 河村 醉月
 石倉 桜舟 伊藤 秀英 岩瀬 祥苑 江崎 婦沙子 大矢 大月 尾野 聴石 落合 八代栄 加藤 浩子 神田 春谷
 石樽 玉瑤 伊藤 韶光 岩瀬 房子 江崎 婦沙子 大矢 大月 尾野 聴石 落合 八代栄 加藤 浩子 神田 春谷
 石田 茜華 伊藤 青慶 岩瀬 八恵子 榎本 翠峰 大山 雅峰 加藤 北辰 神戸 笙詩 木澤 麗川
 石田 李舟 伊藤 桃苑 岩田 永慎 大石 紅妍 岡 幸秀 加藤 芳枝 木澤 麗川 岸田 昌子
 石塚 弘子 伊藤 紀子 岩田 香翠 大石 窓雪 岡崎 志虹 加藤 芳司 金原 恭江 倉内 翠羽
 石橋 遊貴 伊藤 美代子 岩田 寿泉 大石 窓雪 岡崎 志虹 加藤 芳司 金原 恭江 倉内 翠羽
 石原 宗久 伊藤 弥生 岩垂 季粧 大久保春鼎 岡田 愛子 金倉 あゆみ 北川 玲香 久世 たか子
 石原千砂子 伊藤 蘭徑 岩場 恵子 大久保春鼎 岡田 志保 金倉 あゆみ 北川 玲香 久世 たか子
 磯貝 碧雲 伊藤 蘭香 岩本 湛山 大澤 雅舟 岡田 真澄 片岡 桂苑 金森 柏泉 北村 玉鳳 工藤 玉州
 磯貝みえ子 井戸本瑞心 岩本 麗泉 大鹿 恵華 岡田 容子 神村 瑤春 鬼頭 冬扇 鬼頭 豊寧 久野 生麗 國廣 寿仙 栗本 孝暲
 磯谷 明舟 井戸本瑞心 岩本 麗泉 大鹿 恵華 岡田 容子 神村 瑤春 鬼頭 冬扇 鬼頭 豊寧 久野 生麗 國廣 寿仙 栗本 孝暲
 磯谷ユリ子 磯谷 明舟 井戸本瑞心 岩本 麗泉 大鹿 恵華 岡田 容子 神村 瑤春 鬼頭 冬扇 鬼頭 豊寧 久野 生麗 國廣 寿仙 栗本 孝暲

〈東三河支部〉

会員の善意10万円

中部日本書道会東三河支部

東三河支部の会員に寄付を呼びかけて集めた。林田虎峰支部長、古川侃司(つよし)次長、村井康山次長が豊橋総局を訪れ、伊東誠総局長に寄付金を手渡した。写真。



中日新聞 2019.12.10(火)

第70回記念 中日書きぞめ展

会期 令和2年3月14日(土)～3月15日(日)

会場 ナディアパーク2階アトリウム 名古屋市中区栄三丁目18-1

授賞式 令和2年3月15日(日) 午後2時 ナディアパーク 3階 デザインホール

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通 (申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別記)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び

選考会で認められた準会員

○推薦手数料 二五、〇〇〇円

(承認後ご連絡)

絡いたします

ので振替用紙

にてお振込み

下さい。

担当 教育部

推薦証

右の者は書道並に書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

公益社団法人 中部日本書道会推薦教室

第●●●号
指導者●●●●●
第●●●号
公益社団法人 中部日本書道会

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

令和 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓名) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	〒
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展 資格
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 令和 年 月 日
交付年月日 令和 年 月 日
交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

会費未納の方をお願い

年度末も間近となってまいりました。令和元年度会費未納の方は、至急お納め下さい。(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方) 本部会員は、郵便振替 00890-6-14420。支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等 変更事項は本部までご一報下さい。

052 (583) 1900

令和元・二年度会員名簿訂正のお知らせ

訂正箇所：p.130西川堂森表具店様の住所・TEL・FAX (誤) 〒491-0859 一宮市本町 4-23-11 店 TEL・FAX 0568-72-3629 (誤) 〒491-0883 一宮市下田 2 丁目4-10 自宅 TEL・FAX 0586-71-0354 (正) 〒491-0883 一宮市下田 2-4-25 TEL、0586-72-3629 FAX、0586-71-0354

訂正箇所：裏表紙裏 本部事務局の電話番号 (誤) 052-588-1900 (正) 052-583-1900

本紙面を持って訂正させていただきます。(会員部)

新入会員紹介 千・十一・十二月分

●西三河支部

神屋敷邦子 田中 光華

訃報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

○10月22日 評議員 石原登風氏

ご母堂 静子様 享年93

○10月31日 評議員 岩田佳川氏

ご丈母 貞子様 享年97

○11月7日 評議員 村上輝泉氏

享年86

○11月11日 正会員 佐藤正明氏

享年86

○12月22日 評議員 齋藤勇月氏

ご母堂 三千代様 享年70

事後報告

○8月16日 準会員 谷岡千信氏 享年79

○9月30日 準会員 高橋小華氏 享年57



あとがき

明けましておめでとようございませす。令和初の新年号、第一九五号をお届け致します。

本号では、第七十回記念中日書道展。オリンピック開催記念事業として「世界の書の祭典2020」と銘打った、イベント開催のご紹介。また、チャリティ募金にご協力戴きました皆様のご芳名も掲載いたしております。新年度の事業へのご参加、ご協力を宜しくお願い致します。(編集部)